



緑区について

緑区のおゆみ

昭和44年に港北区から分区し誕生した緑区は、平成6年の行政区再編成により現在の区域となり、令和元年に区制50周年を迎えました。

一般公募の中から決定した区名には、「緑を美しく保存したい」という願いが込められており、地域・行政の協働により、区域に溢れる自然や景観の保全が図られています。

年表

昭和 14年 4月	発足当時の緑区にあたる都筑郡の1町4村(川和町・山内村・中里村・田奈村・新治村)が横浜市に編入され、新設された港北区の一部となる
昭和 44年 10月	港北区から分区し緑区誕生 川和町の区庁舎で業務を開始 ※区域面積：76.09 km ²
昭和 47年 4月	区庁舎を現在地(寺山町118番地)に移転
平成 6年 11月	行政区再編成の実施により現在の緑区誕生 ※区域面積：25.42 km ²
令和 元年 10月	区制50周年

※資料：『横浜市統計書 第1章 第2表』



● 区のシンボルマーク

平成元年に制定した区のシンボルマークは、緑の木々のイメージを、MIDORIのMの形を抽象化して表現しています。



● 緑区キャラクター

平成20年10月生まれ。葉っぱをモチーフに、服には区の木「カエデ」、ほっぺには区の花「シラン」をデザインしています。

緑がいっぱい

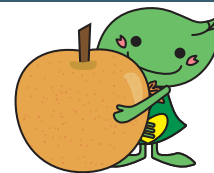
緑区最大の魅力は、区名のとおり緑が豊かなこと。総面積に対する緑被率は40.6%※と、横浜市内の行政区で1位となっています。



※資料：『横浜市統計書 第15章 第5表(1)』令和元年度調査結果。

農業が盛ん

緑区では様々な作物が栽培されており、「果樹類」の農業経営体数が横浜市内の行政区で1位※となっています。

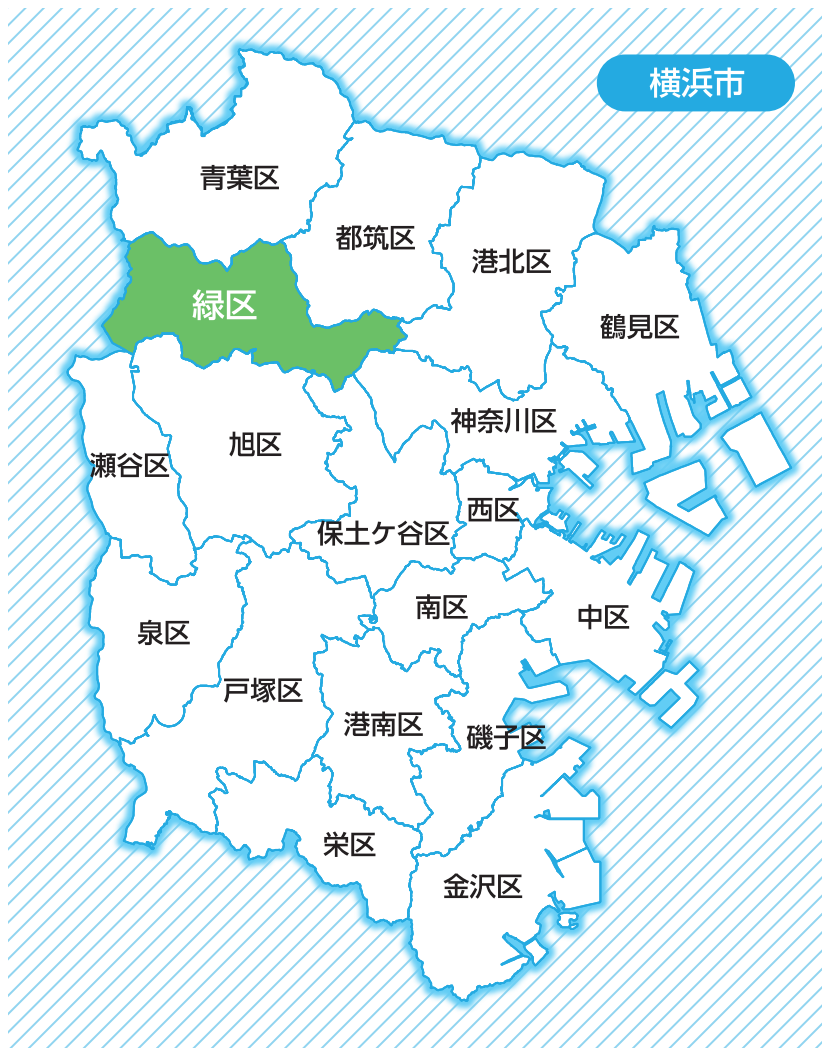


※資料：『2020年農林業センサス 第15-1』

多文化共生の推進

緑区では近年、外国人人口が大きく伸びており、多文化共生に向けた環境づくりの重要性が一層増しています。このような状況において、令和3年3月、外国人支援の具体的な取組として、中山駅北口に国際交流ラウンジがオープンしました。同施設では、多言語による相談・情報提供のほか、日本語教室や外国人児童への学習支援、日本人との交流活動等の拠点となっています。





横浜市

区名	面積 (km ²)
鶴見区	33.23
神奈川区	23.72
西区	7.03
中区	21.50
南区	12.65
港南区	19.90
保土ヶ谷区	21.93
旭区	32.73
磯子区	19.05
金沢区	30.96
港北区	31.40
緑区	25.51
青葉区	35.22
都筑区	27.87
戸塚区	35.79
栄区	18.52
泉区	23.58
瀬谷区	17.17
横浜市全体	437.78

資料：『横浜市統計書第1章第3表』
※令和4年4月1日現在。



緑区